



野 外 活 動

令和6年度を振り返って

野外活動専門委員長

福岡県立戸畑工業高等学校 池之上 哲 朗

令和6年度も野外活動「九重キャンプ教室」を無事終了する事ができました。参加していただいた学校の先生方のご協力に深く感謝いたします。今年度の参加状況は、「自立と協働を学ぶ体験活動」が1団体（野外調理、久住山登山）の440名でした。九重キャンプが実施された7月末は曇り空でしたが、コース変更や途中下山などもなく、また体調不良等によるリタイヤ生徒もいなかった事を考えると成功といってもよいのではないかと思います。これも参加された学校の日頃から生徒への適切な事前指導と引率の先生方の入念な準備によるものだと感じました。また専門部としても天候などによるコースの急な変更にも十分に対応できる準備をしていたことで、さまざまな条件下でも当初の目的は十分達成できたと思っています。

さて今年度の「九重教育キャンプ」で計画されていた幕営体験は今まで使用していたキャンプ場が新型コロナの影響で今年も閉鎖されているため、ホテルでの宿泊となり、幕営体験を楽しみにしていた生徒にとっては残念だったと思います。ただ生徒たちは早朝より元気よく登山し、途中歩きづらい山道を何時間もかけてようやく久住山山頂に登ったときは多くの生徒が山頂からの雄大な景色に感激していたようでした。また班行動での登山でしたが、班員が力を合わせて疲れた生徒には声をかけながら、一人も欠けることなく全員が山頂を踏めた事はよかったです。また班行動での登山でしたが、班員が力を合わせて疲れた生徒には声をかけながら、一人も欠けることなく全員が山頂を踏めた事はよかったです。

また今年の参加団体は野外調理を実施し、薪の火起こしに始まり食材の調理や火力調整、食事の準備・後片付けなどの経験を通して、一回の食事の準備がいかに大変であるかを体験することは、現代の高校生の「黙って座れば食事もある場所もあたりまえのように提供され、『生活』することの実体験が著しく乏しい」現状を考えると自分がいかに便利な世の中に暮らしているかを知るきっかけになったと思います。またこの体験の多くが自分の都合だけではできないことへの不満もあったかもしれませんが、これもよい体験だと考えています。また夜は自然を生かした観測会やキャンプファイヤー、九重にちなんだ講演会など様々なプログラムがあり、九重の自然を

満喫しているようでした。

「自立と協働を学ぶ体験活動」では、プログラムの概要として、第一に“自然等体験活動”が挙げられ、登山、ウォークラリー、鍛錬歩行、野外炊飯、テント設営、ボランティア活動が実施内容例としてあげられています。この機会に多くの学校で野外活動（キャンプ教室）が見直されて欲しいと考えています。

会場の「阿蘇くじゅう国立公園」は、1934年（昭和9年）に誕生し、自然の火山景観とともに、野焼きに代表される人間の営みによる草原景観が特徴です。さらに、「くじゅう坊ガツル・タゲ湿原」は、2005年にラムサール条約の登録湿原となりました。

「九重キャンプ教室」は、各団体の方針で自由に計画・実施していただくことが可能です。そして、団体からの要請で、高体連野外活動専門部が、登山や山歩きの案内、救護誘導、野外調理のアドバイス、色々なアクティビティの準備などをお手伝いしています。事前打ち合わせの中から、十分な対応ができるように進めていきます。

しかしながら、「九重キャンプ教室」の今おかれている状況は決して明るいものではありません。コロナ禍以前まで使用していたキャンプ場は閉鎖されたままで、代替となるキャンプ場もなかなか見つからず、設置場所や施設の規模、概要などの問題をかかえたまま実施しているのが現状です。このため積極的な案内もできず専門部としても心苦しい状態が続いています。

福岡県高体連の野外活動「九重キャンプ教室」は半世紀を超えて続いています。部活動に加入していない生徒も利用できますので、野外活動のよさを再認識していただき、ぜひ多くの学校・団体が訪れてくださることを心から望んでいます。